

ヒ素汚染対策

昭和46年(1971年)11月、旧土呂久鉱山における亜硫酸製造などによって地域住民の中に健康被害があるとの問題が提起されました。調査の結果、土呂久地区には、旧土呂久鉱山の操業に伴って住民の健康に影響を及ぼすような環境汚染があったこと、また、慢性ヒ素中毒症と思われる健康被害者がいるということが明らかになりました。

この公害病の発生を受け宮崎大学では、慢性ヒ素中毒患者の認定審査会や住民健康診断、患者支援などに長年携わってきました。1995年以降に、アジア各地からヒ素汚染と慢性ヒ素中毒が疑われる症状が報告されると、翌年からヒ素汚染被害の最も大きいバングラデシュで、対策を前提とした調査・研究活動を開始しました。また、医学部皮膚科学分野ではバングラデシュ以外にも、中国内モンゴル自治区、ネパールなどで慢性ヒ素中毒の症状確認を行いました。

バングラデシュでの10年以上の研究やNGOとの連携から得たノウハウを生かし、その後はインド・ウッタルプラデシュ州バライチにて2つのヒ素汚染対策事業を行いました。1つ目は2008年から2年間、JICA 草の根技術協力事業『インド UP 州における地下水砒素汚染の総合的対策 (Integrated Approach for Arsenic Pollution Mitigation in Uttar Pradesh state, India)』。2つ目は2011年から2年間、JICA 草の根技術協力事業『行政主導化を目指したインド UP 州における総合的砒素汚染対策実施事業 (Execution of Arsenic Mitigation Project for Establishment of Government Initiative System in UP state of India)』です。

インドでの対策活動を終えた2015年より、ミャンマーのエーヤワディー州タバントウンシップにて、ヒ素汚染地域における基本保健情報整備及び、飲料水対策により衛生保健の実施体制が向上することを目的とした、『ヒ素汚染地域における衛生保健の実施体制強化プロジェクト (The Project for Promoting Environmental Health in Arsenic Contaminated area in Myanmar)』を実施いたしました。

将来的には、本事業でモデル化された飲料水汚染対策と衛生保健実施体制が政府の対策として導入され、他の飲料水汚染地域へ普及されることを目標としており、『ミャンマー国高濃度ヒ素汚染地域における健康リスク低減のための安全な飲料水供給モデル事業 (Implementing the safe drinking water supply model for health risk reduction in highly arsenic contamination area in Myanmar)』を新に実施予定です。



汚染井戸のマーキング



ヒ素除去実験



ヒ素濃度測定



現地医療検診活動（医学部）



代替水源を建設



小学校啓発活動